

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	他店商品券	普通預金
仕入	備品	固定資産売却益	売上
通信費	貸倒損失	資本金	固定資産売却損
備品減価償却累計額	租税公課	減価償却費	仮払金
売掛金	支払手形	受取手形	未払金
旅費交通費	未収入金	貸倒引当金	償却債権取立益

- 顧客に商品¥592,000を売り渡し、代金のうち¥300,000は他店発行の全国百貨店共通商品券で受け取り、残額は顧客振出の小切手で受け取った。
- 平成26年7月1日に購入した備品(取得原価¥1,500,000、耐用年数8年、定額法で計算、間接法で記帳)が不用になったので、本日(平成30年5月10日)¥888,000で売却し、代金は来月末日に受け取ることにした。なお、決算日は12月31日とし、減価償却費は月割りで計算する。
- 従業員が得意先に出向くにあたり、旅費交通費¥2,650をICカードで支払った。なお、ICカードは入金時に仮払金勘定で処理しており、あらかじめ¥10,000が入金されている。
- 店舗兼住宅にかかる固定資産税の第2期納付額¥120,000を現金で納付した。なお、店舗兼住宅における住宅の割合は30%である。住宅にかかる部分については、資本金勘定を減額すること。
- 前期に貸倒処理した売掛金¥56,000および当期に貸倒処理した売掛金¥98,000のうち¥30,000が本日、当店の普通預金口座に入金された。なお、いずれも貸倒時に貸倒損失勘定で処理している。

第2問 (10点)

次の分記法による勘定記入を参照して、答案用紙に示す繰越商品勘定および売上原価勘定を完成させなさい。なお、売上原価の算定は売上原価勘定を用いて行うものとし、商品売買の会計処理は三分割法(繰越商品勘定、仕入勘定および売上勘定)を用いているものとする。また、問題の便宜上商品勘定および商品販売益勘定の日付は省略する。

商 品		商 品 販 売 益	
前期繰越	58,000	受取手形	280,000
買掛金	265,000	当座預金	756,000
当座預金	325,000	売掛金	560,000
現金	1,000,000	次期繰越	80,000
売掛金	28,000		
	<u>1,676,000</u>		<u>1,676,000</u>

  

商 品 販 売 益		商 品 販 売 益	
売掛金	12,000	受取手形	120,000
損益	672,000	当座預金	324,000
		売掛金	240,000
	<u>684,000</u>		<u>684,000</u>

**第3問** (30点)

次の[5月中の取引]にもとづいて、答案用紙における試算表の[5月中の取引高]を集計し、[4月30日の合計]と合算して[5月31日の合計]を計算することで、試算表を完成しなさい。

**[5月中の取引]**

- 2日 得意先丸山商店に対して商品¥888,000を販売し、代金のうち¥400,000は同店振出の約束手形で受け取り、残額は掛けとした。なお、当店負担の発送費¥5,400を現金で支払った。
- 7日 仕入先尾道商店より商品¥685,000を購入し、代金のうち¥280,000は先に支払っていた手付金を充当し、残額は当店振出の小切手で支払った。なお、当店負担の引取運賃¥3,240は現金で支払った。
- 10日 従業員から預っている所得税の源泉徴収税額¥5,160を現金で納付した。
- 14日 得意先内之浦商店に対して商品¥960,000を販売し、代金のうち半分は得意先振出しの小切手で受け取り、残額は現金で受け取った。
- 15日 得意先より掛代金¥280,000が現金書留により送付されてきた。
- 18日 得意先中津商店より商品¥600,000の手付金として、現金¥250,000を受け取った。
- 20日 取引銀行である肥前銀行より、利息の支払日が到来し、¥1,500が当店の当座預金口座より引き落とされた。
- 22日 得意先より受け取っていた約束手形¥500,000が満期日をむかえ、当店の当座預金口座に入金された。
- 25日 従業員の給料¥250,000より、所得税の源泉徴収税額¥5,160を差し引き、当座預金口座からの振替により支払った。
- 27日 家賃¥85,000および営業に使用分の高速道路用ICカード料金¥36,520が当店の当座預金口座より引き落とされた。高速道路用ICカードの利用料については、口座引落時に費用として計上している。
- 29日 水道光熱費¥18,650および従業員の営業用携帯電話料金¥14,520が当店の当座預金口座より引き落とされた。
- 31日 仕入先に対する掛代金の支払日が到来し、仕入先に対する掛代金合計¥400,000を当座預金口座より支払った。

第 4 問 (10 点)

次の山形商店における各取引の伝票記入について、空欄(ア)～(オ)に当てはまる適切な勘定科目または金額を答えなさい。なお、使用しない伝票の解答欄には「記入なし」と答えること。また、商品売買取引の処理は 3 分法によること。

- (1) 西原商店から商品 ¥500,000 を購入し、代金のうち ¥180,000 は約束手形を振り出して支払い、残額は現金で支払った。なお、いったん掛取引として記帳する方法は採用していない。

出 金 伝 票		振 替 伝 票			
科 目	金 額	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
( )	( ア )	( イ )	180,000	( ウ )	180,000

- (2) 得意先より掛代金 ¥225,000 が当店の当座預金口座に入金された。

入 金 伝 票		振 替 伝 票			
科 目	金 額	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
( エ )	( )	( オ )	( )	( )	( )

第 5 問 (30 点)

次の(1)決算整理前残高試算表および(2)決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の貸借対照表および損益計算書を作成しなさい。なお、会計期間は平成 29 年 1 月 1 日から同年 12 月 31 日までである。

(1) 決算整理前残高試算表  
平成 29 年 12 月 31 日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
56,200	現 金	
4,256,300	普 通 預 金	
1,940,000	受 取 手 形	
1,480,000	売 掛 金	
326,800	繰 越 商 品	
900,000	備 品	
5,000,000	土 地	
	買 掛 金	1,895,000
	仮 受 金	400,000
	借 入 金	1,000,000
	貸 倒 引 当 金	92,500
	備品減価償却累計額	375,000
	資 本 金	9,102,100
	売 上	9,768,000
	受 取 地 代	360,000
5,885,900	仕 入	
2,189,000	給 料	
295,200	水 道 光 熱 費	
185,200	通 信 費	
468,000	支 払 家 賃	
10,000	支 払 利 息	
22,992,600		22,992,600

(2) 決算整理事項等

- 備品のすべてを平成 29 年 7 月 31 日に売却しており、売却価額を仮受金勘定で処理しているため、期首から売却時までの減価償却費を計上するとともに、必要な修正を行う。
- 期末受取手形および売掛金残高に対して 5.5% の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- 備品は耐用年数 6 年にわたり、定額法で償却を行っている。
- 期末商品棚卸高は ¥125,600 である。
- 支払家賃は毎月末日に翌月分を支払う契約となっているため、当期の期間に属さない分を費用から減額する。なお、契約書による継続契約期間は平成 28 年 5 月 1 日より 3 年間である。
- 地代は毎月末日に翌月分を受け取る契約となっているため、当期の期間に属さない分を収益から減額する。なお、土地は当期の 5 月 1 日より賃貸を開始している。
- 給料の決算日までの未払額が ¥79,000 ある。
- 借入金は、平成 27 年 4 月 1 日に期間 5 年、利率年 4% (利息は毎年 3 月末日に支払う契約) の条件で借り入れたものである。なお、利息の計算は月割りによること。